

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 米本 清	(学部) 地域政策学部
1 重要事項 ①災復興関連の研究 2011 年度まで福島県内の研究教育機関に在籍していたことから、東日本大震災・原発事故の影響および復興に関わる研究を行っているが、本年度も引き続きこれを行った。成果は主として以下の学会で発表した。 2013 年 7 月 12 日 (金) タイトル: "Input-output and Trade Structures of the Regions of Fukushima, Japan" 21st International Input-Output Conference (国際産業連関分析学会) 北九州市にて開催 *海外の地域産業連関分析の第一人者などから多くのコメントをいただいた。 その他、震災に関わるその後の状況変化について、各種シンポジウム等に参加し、情報収集に努めた。 ②選好・効用の理論に関わる研究 ここ数年進めてきた選好・効用の理論に関わる研究について、基礎的な部分が終了したので、以下の形で発表した。 Yonemoto, K., 2013. Utility of Change and Lifetime Consumption. Discussion Paper of the Society of Regional Policy, Takasaki City University of Economics. Yonemoto, K., 2013. Utility as a Function of Consumption, Asset and Their Derivatives. Discussion Paper of the Society of Regional Policy, Takasaki City University of Economics. 2013 年 9 月 15 日 (日) タイトル: "Utility of Change: Behavior and Welfare" 日本経済学会秋季大会 (神奈川大学) ③地域経済学関連の研究 選好・効用の理論の地域経済学への応用として新しいモデルを提案し、以下の学会にて発表した。	

2013 年 12 月 14 日（土）

タイトル："Preference for Diversity as a Centrifugal Force"

応用地域学会第 27 回研究発表大会（京都大学）

また通時的選好の差異と 2 地域の交易に関わる別のモデルも提案し、2014 年度の日本経済学会秋季大会にて発表の予定である。

2 その他の事項

7 月 14 日（日）のオープンキャンパスにおいて「都市経済学から見た日本・世界の街」と題して一般向けに模擬授業を行った。

11 月 1 日（金）の三扇祭期間中に行われた地域政策学部プレゼンテーション大会において審査員を行った。

学内の各委員会等にも積極的に参加した。

本学産業研究所の総務企画委員を務めた。

本学地域政策学会「学生向け学習・研究支援プログラム」事業の一環として、外部講師を招聘し学生向けの講義を行っていただいた。

本年度、職域代表者に選出された。例年と比べて特に大きい課題（臨時特例による給与改定の件）が生じたため、百数十時間をかけてこれへの対応にあたった。

2012 年度以来、東北大学をはじめ、仙台地区の大学が参加する大学コンソーシアム「復興大学」の講師として震災復興に関わる講義を行っている。

関東都市学会に入会し、大会・シンポジウムに参加した。